

こばやかわ たかかげ  
**小早川 隆景**

1533（天文2）年～1597（慶長2）年



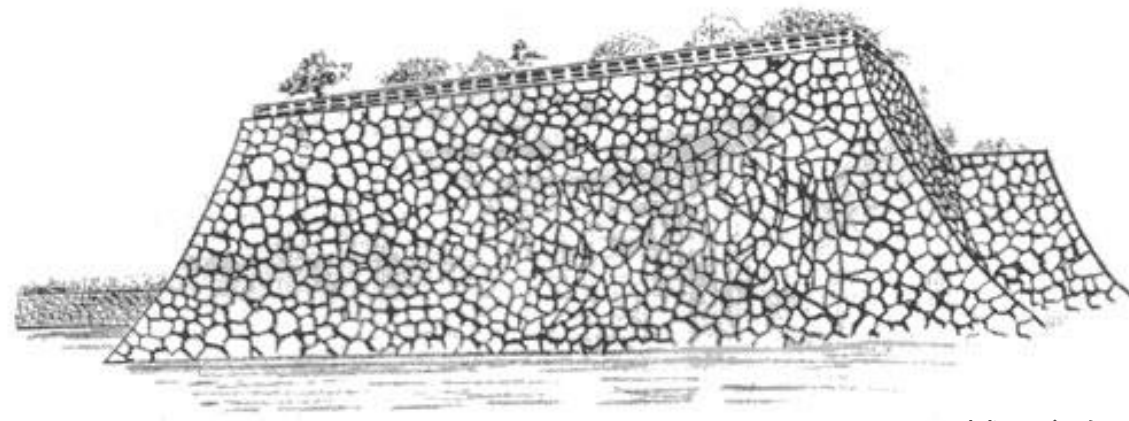
戦国時代の終わりころに活躍した武将です。

毛利元就という大名の三男で、子どものときの名を徳寿丸といました。12歳のときに竹原（現在の竹原市）の小早川家の養子になり、のちに本家の沼田（現在の本郷町）小早川家のあとを継ぎ、小早川家を一つにまとめました。

その後、本郷の新高山城を中心にして、兄の吉川元春とともに各地の戦に活躍し、父の元就や甥の輝元を助け、中国地方をはじめ四国、九州まで勢力をのばしました。

1567（永禄10）年に、隆景は瀬戸内海で活動するために三原に城を築き、本郷の新高山城から三原城に活動の中心地を移しました。

現在の三原城は、天主台、舟入櫓の石垣など一部が残っていますが、昔はとても大きな城で、櫓が32、城門が14ありました。城の姿も海に浮かんでいるように見えるので、「浮城」とも呼ばれました。豊臣秀吉や徳川家康もこの三原城を見て、そのすばらしさに感心したといわれています。



三原城天主台跡